

マグマ噴火の火山ハザードマップ ●この図はマグマ噴火（噴出量は3000万m³）が発生した場合のハザードマップです。

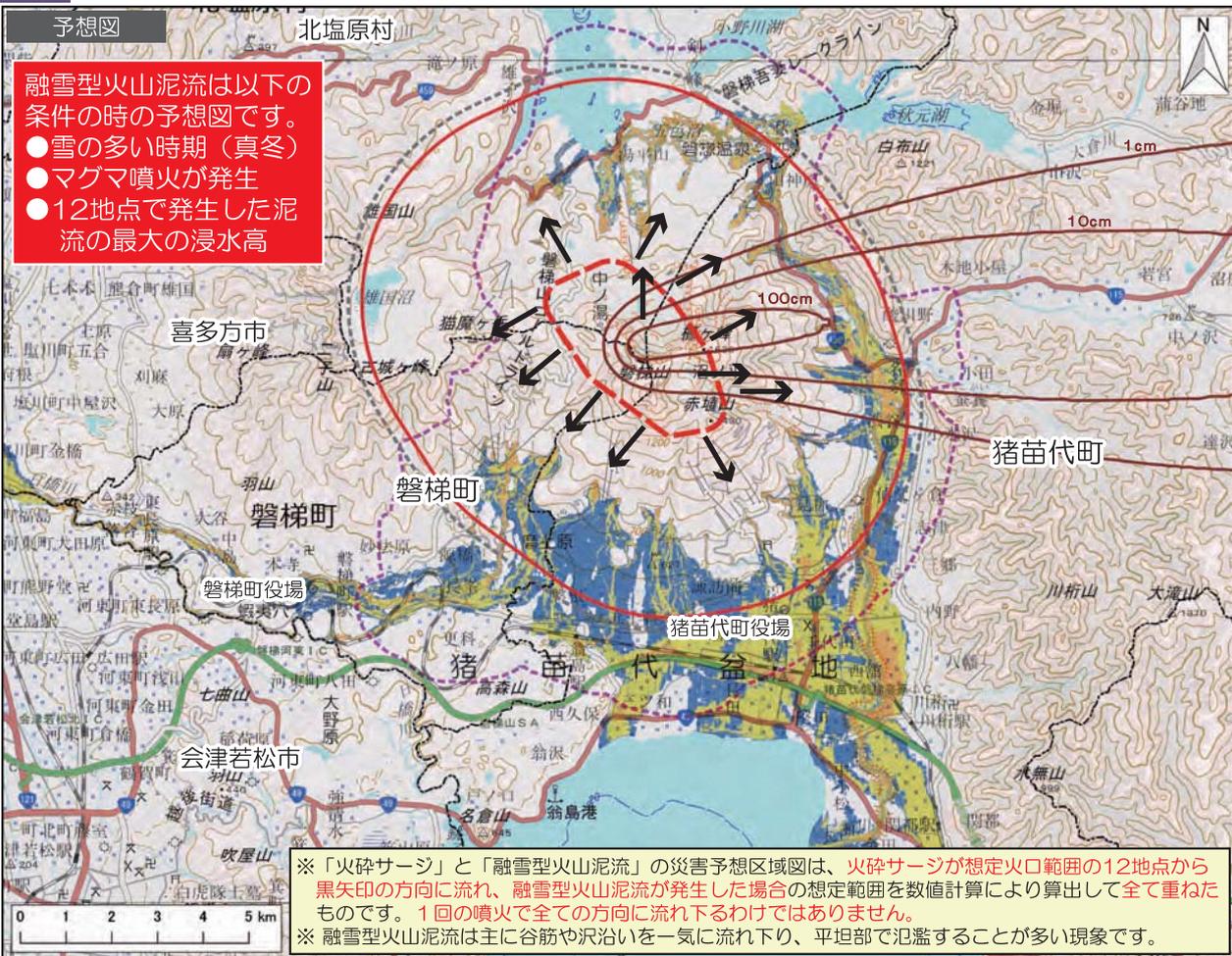
- 大きな噴石が、火口から4kmの範囲に飛散します。
 - 降灰の分布は、上空の風向きによって大きく変わります。磐梯山上空の風は年間を通して西風が多く、東側に分布することが多い傾向にあります。
 - 火砕サージは火口から約6~9kmの範囲に広がります。火口のできる位置によって分布範囲が変わり、火口が北側に出来れば北側、南側に出来れば南側に広がります。
 - 山に雪がある時に噴火が起きると、火砕サージが到達した範囲の雪が融けて、融雪による火山泥流が発生します。
- ※磐梯山のマグマ噴火は過去1万年以内に1回だけ発生した低頻度の現象です。

<凡例>

- 想定火口範囲
- ← 火砕サージの流下方向
- 大きな噴石
- 降灰（西風の場合）※想定火口範囲の中心から噴出した場合
- 降灰（西風以外の場合）※想定火口範囲の縁から噴出した場合
- 火砕サージ
- 融雪型火山泥流の浸水高（目安となる氾濫水深）

2m以上
2m未満~50cm以上
50cm未満（大人のひざ）

- 県境
- 市町村境
- 国道
- 高速道路
- 鉄道



火口別の融雪型火山泥流の予想図

火口の位置で融雪型火山泥流の到達範囲が変わります。

- 融雪型火山泥流が流れる場所や泥流の規模は、火口の位置や火砕サージの範囲、山頂付近の雪の量などで変わってきます。
- 想定火口範囲の北・東・南で噴火すると、磐梯山周辺、特に長瀬川沿いに広がります。
- 想定火口範囲の南西側で噴火すると、会津盆地まで泥流が到達します。



その他 注意すべき火山現象

- 火口噴出型泥流**
- 地下の温泉水などが、噴火に伴って噴き出し、下流まで到達することがあります。
 - 噴火と同時に発生することが多いのが特徴です。



火口噴出型泥流の予想図



火山ガスの噴出や地熱活動

- 磐梯山では、沼ノ平、銅沼、中ノ湯の周辺で火山ガスが噴出しています。
- 火山ガスには硫化水素が含まれているため、付近を歩くときには注意が必要です。
- 危険な箇所には看板が設置してあります。看板にしたがって、立ち入らないようにしましょう。



斜面崩壊や山体崩壊

- 1888年噴火の崩壊壁は急斜面で岩盤が露出しているため、大雨や地震によって崩壊が発生しています。
- 大雨によって発生する崩壊は土石流となって下流まで流れ下ることがあります。
- また、磐梯山は過去1万年間に3回の山体崩壊が発生した実績もあり、大規模に崩れることもあります。

